



TITLE:

會報と通信

AUTHOR(S):

CITATION:

會報と通信. 天界 1927, 7(78): 391-392

ISSUE DATE:

1927-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161142>

RIGHT:

會 報 と 通 信

新 入 會 員(昭和二年六月中旬迄)

山 口 彌 一 郎	〔山 本 一 清 紹 介〕	福島縣立磐城高等女學校(教諭)
高 津 清 一	〔五 藤 齋 三 紹 介〕	東京市神田區鈴木町24(學生)
遠 藤 元 晴	〔同 上〕	同 小石川區白山御殿町114
與 謝 野 修	〔同 上〕	同 麴町區中六番町7
菱 谷 六 次 郎	〔同 上〕	東京市外大森町不入斗1488(會社員)
須 田 幸 雄	〔同 上〕	埼玉縣北足立郡内間木村濱崎(農業)
岡 田 秀 平	〔柴 田 淑 次 紹 介〕	京都市第三高等學校寄宿舎(學生)
島 津 忠 承	〔種子島時彦紹介〕	同 相國寺東門前町637(學生)
小 泉 末 吉	〔内 海 茂 紹 介〕	大阪市東成區鶴橋木野町295(金物商)
門 脇 恒	〔森下助次郎紹介〕	神戸市下山手通四丁目61澤井方(學生)
太 田 榮 一 郎	〔水 野 千 里 紹 介〕	岡山縣勝山町中町(學生)
堀 井 惠 一	〔同 上〕	同 西 町 (同)
廣 井 猛	〔石 井 峰 男 紹 介〕	廣島縣福山市御舟町
古 市 由 藏	〔小 島 時 久 紹 介〕	香川縣善通寺高等女學校(校長)
木 邊 成 麿	〔藤 谷 爲 隆 紹 介〕	滋賀縣野洲郡中里村(學生)

以 上 十 五 名

上 田 支 部 通 信

星の研究會＝ウインネットケ彗星現はる
その報ありしより同研究會は最も地球に
接近すべき六月二十七日——の夜實體觀
測を主として開催、會員外多數來會九時
迄に宮島善一郎氏より天體運行につきて
主題し講話を聽き後、氏の所有になる天
體望遠鏡を市内柳町神宮境内に据えつけ
六年一回周期的に現はるゝ東の空にあの
彗星を觀測した。尙ほ悠々ばてしなき夏
の空に光彩金銀の砂子にもおさおさ劣り
なき幾千萬の星辰のばらまきと南の空に
現はれて居た土星の肉眼では決して見え
ぬ有名なリングを觀測し得た。心ゆくま
ゝ眺め通し再嘆三嘆した。あの一夜、げ
に思ひ出は書けども盡きず語れども止ま
らない。

朝 鮮 支 部 通 信

拜啓、今回は山本先生の御快諾を得ま
して、當支部に於きましては、先生御歸
東の途を特に三時間許り列車の都合を利
用して當地へ御立寄をお願ひし、一場の
御講演をしいたゞきました。

即ち、本日(七月三日)午前八時二〇分
より當地京城基督教青年會館に於て、當
支部並に京城クリスト教青年會の幹旋に
て「宇宙を支配するもの」その御演題の下
に九時三〇分迄大約一時間許りの御講演
でした。

本日は日曜ではあり、殊には朝八時か
らの開會なのでありましたにもかゝらば
ず、幸ひ、當地クリスト教青年會總幹事
丹羽清次郎氏の多大なる御盡力によつて
約百六七十名の來聽者あり非常な盛會

で、支部員にとつても大變欣快に堪へませんでした。

六時五〇分にお着きになつた先生をお出迎へした我々同好會員並に青年會關係の人々十三名は、先づ驛内にて先生と御一緒に簡単な朝飯をすませました。この朝飯の時に（何と云つても時間が僅かしかありませんので、懇談會を兼ね）先生が奉天で觀測されたウ彗星及び蝎座のアンタレス附近に流れた流星其他二枚の寫眞を卓を圍んで順々に見せていたゞいで大變愉快でした。自動車で會場に急行したのは丁度八時でした。八時からの講演の豫定でしたが一寸遅れて同時二〇分から御講演があつたのです。

先生には先づ御自分が天文學者としての立場から、簡単に「宇宙」さか「天文學」の語義及範圍と云つたやうなものに就て述べられ、次いでエジプト、バビロンの昔からケプレル、ニュートンに至るまでの大略の天文史の變遷を骨子として、絶えず卑近な例をひかれて種々御話あり、殊にニュートンの偉大なる業績に就てはいろいろ御説明あり、そのニュートンが、地球公轉速度の起源を神の意志によるとした考へ方の當然にして決して現代の天文學者が一笑に附し去るべき性質のものでないことに説き及べれ、「我々は些細なる現象すら規律的に起るべきはそこに何等かの働きかける或力を考へざるを得ないと同じ理由で、況んや天體の如き壯大なものが規律的に嚴肅に運動してゐる事を目の邊り見てその間に或る考へ及ぼざる絶大なる力の介在することを想像することは極めて自然なことだ」と申されました。

最後に學問は人生のための學問で學問の爲の學問でなく、自分が天文をやつてゐるのも興へられた一つの約束を果すため、この約束を果すことが即ち我々の大なる使命であるとして、終始純粹に天文學者としての立場から大略以上の如き御講演でした。終るに直ぐ、驛に向ひまし

た。

先生には大變御元氣で、やがて十時發の列車で南下され、我々會員、青年會員一同感謝の念に先生の御健勝を祈り乍らお別れしました。終始クロノメーターを大事にして居られたのが深い印象です。

右よりあへず御通知申上げる次第であります。 七月三日 大山 督

神 戸 よ り

山本博士様

時は七月二十日午前九時炎天の下、京大天文臺の大ドーム内、日本第一の「12吋」屈折大望遠鏡据付終了の日——、將來永く最も記念すべき此の好き日——に公用の隙を利用して參臺拜觀の榮を得たる事は何たる至幸の者！有難く存じ候。流汗の浸み、器械油の汚れ見ゆるワイシャツ姿の先生には幾多の人々を督勵され自から陣頭に立ちて大車輪の様、倍觀の拙生感慨無量に御座候ひき。其の間にも絶えず御やさしき御説明下され、「時余にして完了すべければ、折角、觀測せよ」その御言葉は膽に銘して有り難く、謹んで感謝奉り候。平常なれば終日勞を辭せざるに、公用止むなく御別れ申し候次第惡しからず御寛容下されたく候。只小生は此の記念すべき日に會して如何に嬉しかりしかを述べ、御厚情の御禮に代へ申候敬具。 神戸 同好會員 小穴匡雄拜

北 海 道 か ら

随分と御無沙汰致しました。私は十四日から落石に參り實習致して居ります。八月の末まで落石に居ります。三百尺の鐵柱が五本もあります。Heaviside Layerの事を少し研究して居ります。天文の方と随分關係あるので興味深くあります。高山植物の咲き亂れた落石岬にて心ゆく許りの實習を致して居ります。

七月三十日

米田勝彦